

(学力向上・国語)

「学習習慣の確立による学力向上」

—取り組みの系統化による「T Y Tモデル」のさらなる推進—

大阪市立矢田東小学校 T Y T 部会

1. 研究主題設定の理由

本校では、「なかよく助け合う子—相手の気持ちを受け止め、すすんで友達と関わる」「すすんで取り組む子—言語活動を通して、自らすすんで考え、表現する」「つよい体にきたえる子—すすんで体力の向上につとめ、最後までくじけずにやりぬく」を目指す子ども像とし、『豊かな心を持ち、主体的に生き抜く子どもを育てる』を学校教育目標に掲げ、日々の教育活動を展開している。

平成28年度「大阪市小学校学力経年調査」では、国語科と算数科のどちらの教科に関しても、全ての観点において、大阪市正答率を下回ってしまう結果となった。また、全校児童を対象に実施した『学校アンケート』からは、基礎的な生活習慣が身につけているとは言えない状況にあることがわかった。特に、家庭学習においては決められた時間に学習する児童の割合が約7割で、日常生活のリズムの中に学習が組み込まれていない児童が少なくないことが見て取れる

2. 研究の趣旨

アンケート調査や学力経年調査、日頃の児童の様子を分析した結果、基本的な生活習慣（起床・就寝・食事・家庭学習）、友達や家族とのコミュニケーション能力、豊かな心や思いやりなどの情緒面、学習面に関して課題があることが浮き彫りとなった。そこで、本校では、教務部・研究部・生活指導部・人権教育部・健康教育部・特別支援教育部の6つの部会が互いに連携を取りながら、さまざまな取り組みを多角的・総合的に行うことで、学力の向上を中心課題に据えた総合的な「生きる力」の育成をめざしている。

これらの課題をチーム学校として取り組むための「T Y T」がスタートした。「T Y T」とは「チーム」「やた」「とん」の略称である。本年度はT Y T発足から4年目となる。本年は「学習習慣の確立による学力向上 ～取り組みの系統化による『T Y Tモデル』の深化とさらなる推進～」というテーマのもと、これまでの3年間の積み上げてきた取り組みを系統立てて効果的に実施・推進していくことですべての子どもの学力向上につなげていこうと取り組んできた。

3. 研究の概要

T Y Tの主な取り組みについて

- ・ 「まなびのきほん～べんきょうすいすい～」をすべての教室に掲示する。
- ・ 必要な筆記用具を学年別一覧表にして年度初めに配布し「筆記用具の統一」を図る。
- ・ 鉛筆の持ち方・声のものさし・話し方聞き方名人・ローマ字表・単位換算表・作文の書き方など、子どもたちが学ぶためのツールを載せた「下敷きの作成」をする。
- ・ 普通教室のすべての椅子にテニスボールをつけ、雑音を抑える。
- ・ 時間割や掃除道具の片づけ方など、全校で統一した視覚支援を行う。
- ・ 校務支援パソコンを利用して職員朝会を週1回にし、担任が朝学習に入る。
- ・ 毎学期ごとに「矢田東漢字検定・計算検定」を実施する。

- ・ 本校オリジナルの「読書ノート」を作成し、達成した冊数を職員室前に掲示する。
- ・ 「家庭学習の手引き」を配布し、家庭訪問や懇談で説明する。
- ・ 自主学習強化月間を設け、モデルとなる自主学習ノートを職員室前に掲示することで「自主学習の推進」を図る。
- ・ 「生活ふりかえり週間」を設け、自分で作った日課表をもとに行動を自己管理するとともに、家庭へも協力を求め啓発する。
- ・ 栄養指導で知識的指導にとどまらず、朝ごはんを自分で用意する力を育てる。
- ・ 2時限目後の休み時間を20分に拡大し、業間体育を実施して体力の向上を図る。
- ・ 異学年交流で協調性や自尊感情を向上させるため、たて割り班活動の充実を図る。

4. 研究部の取り組み

(1) 研究の概要

平成26年度から平成28年度までの3年間、算数科を中心に、『意欲的に学習に取り組むことができる子どもを育てる』を研究主題に設定して、児童の表現力の育成を目指した研究に取り組んできた。次の段階として、これまでの研究で培った成果を算数科の枠に止めず、あらゆる学習活動に活用し、確かな学力の深まりと広がりを育みたいと考えた。そこで、本年度からは算数科に特化することなく、全ての学習活動における児童同士の学び合いや高め合いに焦点をあてた研究を進めることにした。そして、本年度の研究主題を『学び合い、お互いに高め合うことができる子どもを育てる～交流を通じて学びを深めたり、広げたりできる授業をめざして～』とした。

(2) 5年生の実践

1、単元名 国語科「世界でいちばんやかましい音」

2、目 標

- 物語の構成をとらえ、山場で起きた変化について考えることができる。
- 課題解決に向けて、児童が互いに話し合い、協働的に学び合うことができる。

3、成果と課題

- 研究の成果

① ペアやグループでの学び合い

話型やハンドサインを示した下敷きを活用し、話し合いの流れを視覚化することで話し合いがスムーズに流れ、学習に深まりや広がりができた。

② 話し合い活動時の役割分担や約束ごと

自分の考えや児童の実態に配慮したグループ構成をし、座席配置を工夫することで、全員が参加し充実した話し合い活動ができた。

③ ICTや教材を工夫による視覚化

学習課題や考え方の変容を把握することができた。また、意欲の向上にもつながった。

- 今後の課題

① 課題提示の仕方を工夫する。

② 児童の実態をつかみ、学習内容に応じた座席配置をするなど、学び合う形態を工夫する。

③ 話し合い活動を行うための場や時間を確保する必要がある。

④ ICTのさらなる活用を図る。